「ファスト風土化」に関する研究の展望

○滋賀大学　山下悠
放送大学　田口了麻

1.本報告の目的

本報告は、三浦展（2001・2004）が提唱した「ファスト風土（化）」について、この用語および現象を学術界および言論界がどのように扱ってきたのかをサーベイ調査し、「ファスト風土（化）」から新たにどのような言説が派生していったのかについてその変遷をまとめ、その上で、「ファスト風土（化）」の定義化を試みることを目的としたものである。

2.概要

2000 年代の言論界における郊外論は､言及の度合いの大小こそあるものの､そのほとんどが｢ファスト風土（化）」について何らかの形で触れている。この流れは、2010 年代に入った現在においても継続しており、近年では「遠足型消費」（中沢・古市 2011）や「マイルドヤンキー」（原田 2014）などといった、「ファスト風土（化）」から派生したと思われる新たな造語が生み出されている。しかし、これらの用語と「ファスト風土（化）」を直接的に結びつける試みは、少なくとも報告者たちが調べた限りでは確認されておらず、「ファスト風土（化）」を基点とした郊外論の体系は、現状下では未だ構築されていないと考えられる。

他方、「ファスト風土（化）」については、学術界においても少なからず言及がなされてきた。しかし、言論界のそれと同様、それらの言説を俯瞰的に見る試みはこれまでになく、また、「ファスト風土（化）」の具体的な定義や発生条件については、山下・田口（2013）による法律・行政の点からの指摘こそあるものの、その他の要素については更なる検討が待たれる。

そこで本報告では、これまでの「ファスト風土（化）」に関する言説を対象に、学術界と言論界が「ファスト風土（化）」をどのように受け止めたのかについて、それぞれその変遷を辿りつつまとめていく。そしてこれを通じて、報告者たちは「ファスト風土（化）」の定義化を試み、今後の郊外論・都市論研究への一助としたい。

3.方法

その方法として、本報告では (1)「ファスト風土（化）」はどのように定義されるのか、(2)「ファスト風土（化）」はどのように発生するのか、(3) 文献内において「ファスト風土（化）」が発生しているとされている場所はどこか、の三点に着目して、既存研究の比較・検討を行う。

4.考察および結果

既存研究の検討の結果、三浦（2001・2004）における「ファスト風土（化）」の定義や発生条件について、これまでの研究では詳細な議論は行われておらず、特に郊外論・都市論の分野においては「ファスト風土（化）」が副次的に用いられている研究が多く、「ファスト風土（化）」のみが発生すると確認された研究は少ないことが明らかとなった。また、「ファスト風土（化）」に関わる言説の特徴として、当初三浦が「ファスト風土（化）」を景観の破壊および均一化というネガティヴなものとしたのに対し、既存研究では「ファスト風土（化）」における問題点を踏まえた上で、「ファスト風土（化）」自体を郊外ないし都市における新たな特徴と捉え、都市的地域の資源の一つとして肯定的に捉えているものが多いことも、合わせて明らかとなった。

［参考文献］三浦展，2004 年,『ファスト風土化する日本―郊外化とその病理』洋泉社．他